2022年度 入試日程(予定)

〈第1期募集〉

●出願期間 2021年7月12日(月)~7月16日(金)

●試験実施日 2021年8月23日(月)

●合格発表日 2021年9月2日(木)

〈第2期募集〉

●出願期間 2021年12月6日(月)~12月10日(金)

●試験実施日 2022年1月29日(土)

●合格発表日 2022年2月3日(木)

2022年度 募集人員				
専攻	研究領域	募集人員		
地域リノベーション専攻	コミュニティデザイン	15名		
	レジリエンステクノロジー	(研究領域毎に半数程度)		
产業創成科学専攻	食産業イノベーション	15名		
医未剧, 似件子等以	グローカルビジネス	(研究領域毎に半数程度)		

学 費

●入学料 282,000円 ●授業料(年間) 535,800円

2021年度入学者実績

奨学制度

研究・勉学への意欲がありながら、経済的な理由に よって本学大学院での修学が困難な院生や、優秀な 学業成績・研究成果を持つ院生に学費等を支援する ために、以下の奨学制度があります。

●日本学生支援機構奨学金(貸与型) 奨学金の貸与月額は次のとおりです。

「第一種(無利子)]

月額50,000円または88,000円 [第二種(有利子)]

> 月額50,000円,80,000円,100,000円, 130,000円, 150,000円から選択

- ●岩谷元彰弘前大学育英基金(奨学金給付事業) 成績優秀でかつ経済的理由により修学が困難な 学生に対して、一人20万円の奨学金を給付
- ●弘前大学大学院振興基金 入学料の免除(全額または半額) 授業料の免除(全額または半額)
- ※上記支援の対象者は選考により決定されます。 なお、詳細については、下記担当にお問い合わせください。 学務部学生課生活支援グループ経済支援担当 TEL.0172-39-3117

弘前大学ホームページ https://www.hirosaki-u.ac.jp/



ACCESS MAP



JR弘前駅からのアクセス ※道路状況により所要時間が変わりますのでご注意ください。

(1) 徒 歩: 約20分 (2) バ ス: 約15分(駅前3番のりば乗車、弘前大学前下車) (3) タクシー: 約5分



国立大学法人 弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地 TEL.0172-36-2111(代表)

人文・地域研究科教務グループ TEL.0172-39-3960

弘前大学入試課ホームページ https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp/



令和3年度

弘前大学大学院 地域共創科学研究科

Graduate School of Sustainable Community Studies 2021

地域リノベーション専攻

産業創成科学専攻







研究科長メッセージ



弘前大学大学院 地域共創科学研究科長 **曽** 我 亨

令和2年4月、弘前大学に新しい大学院「地域共創科学研究科」が誕生しました。日本の地域社会は人口減少、少子高齢化、若者の域外流出、労働力不足など多くの社会問題に直面しています。地域社会をいかに力強く持続させていくかが大きな課題となっています。

本研究科は、この課題に対して「地域を守る」と「地域から 攻める」という観点から取り組みます。地域リノベーション専 攻は、地域を守るうえで重要な社会学と工学を軸に、産業創成 科学専攻は、地域から攻めるうえで重要な経営学と農学を軸に、 高度な専門性と俯瞰性を兼ね備えた人材を育成します。

私たちは「共創」という言葉に、ふたつの意味を込めました。 ひとつは文理共創です。地域共創科学研究科では、文系と理系 の大学院生が、それぞれの専門性を意識しながら、協力して課 題に取り組み、新しい価値の創造を目指します。これは、ひと りの人間のなかに文系と理系の素養を融合させようとする文理 融合とは異なる考え方です。私たちは、さまざまな分野の専門 家が、刺激しあい協力しあうことを重視しました。なぜならば、 複合的な地域の課題は、ひとりの超人によって解決できるもの ではなく、さまざまな専門分野の力を結集し、多角的に取り組 むことによってしか解決できないからです。

ふたつ目は域学共創です。大学院生や大学教員が地域の専門家等と共に、地域の現場が抱える課題を理解し、互いの専門知や実践知を尊重しながら新たな価値の創造を目指します。地域には多様な人々が暮らしており、地域課題を解決するには、多くのステークホルダーの意見を取り入れたり、対話を重ねたりする必要があります。また行政関係者や企業家、地域のNPOや専門家との協働も欠かせません。

皆さんが、地域共創科学研究科で専門性と俯瞰性を鍛え、異分野の専門家や地域の実践者と共創すれば、地域社会の未来は必ず拓かれると確信しています。



は、この現状を打破するために、大学の専門的な知識と地域社会が持つ実践的な知識を交差させ、新しい価値を共 に創造することを「地域共創」と位置づけ、地域共創を科学する研究科を目指します。

理念

地域共創科学研究科における"共創"

それぞれに研究分野を持つ学生が、互いの専門性を 尊重し合い、新たな価値を創出すること。

域学共創

大学院生や大学教員と 地域の専門家が、互いの専門知や 実践知を尊重しながら、 地域の課題解決への考え方や 価値を共に創り上げる

文理共創

文系と理系の大学院生が それぞれの専門性を意識しながら、 協力して課題解決に取り組み、 新しい価値を共に創り上げる

専攻

地域リノベーション専攻

社会学と工学を中心に、地域づくり・防災・自然エネル ギーの活用などの専門性を高めつつ、地域の専門家とと もに「地域を守る」方法を構想します。

産業創成科学専攻

農学と経営学を中心に、農水産物の高付加価値化や商 品流通などの専門性を高めつつ、地域の専門家とともに 「地域から攻める」方法を構想します。

3つのポリシー

地域共創科学研究科

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

1. 教育理念•目標

本研究科では、社会科学・工学・農学等の学士課程における修学をさらに 高度化し、専門性と研究領域の垣根を越えた俯瞰性を兼ね備えた高い能 力を有する"地域社会の未来を切り拓くフロントランナー"を育成する。

2. 求める学生像

学士課程等で修得してきた分野の基礎的な知識のほか、地域の特性や課 題を理解しながら、異分野にも興味関心を持ち、課題解決等に向け実践 的に取り組む音欲と行動力のある者。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 域学共創に必要な基礎スキルの修得

スキル科目 共創の基盤となる、エビデンスに基づいた地域社会の把握や、知的財産を活用した価値創出を学修する。

2. 専門性と俯瞰性を修得

専攻科目 共創の基盤となる専門性と俯瞰性を身に付けるため、異分野にまたがる専攻科目を設定。

3. 域学共創・文理共創に資する能力の修得

異分野の専門家からなるチームが協働することの重要性を理解し、協働による地域社会の機能維持や 産業発展に資する計画を立案し、実行することで新たな価値を創造(共創)する力を身に付ける。

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

- ■地域社会の未来について、専門的・俯瞰 的知識を用いて、より良い在り方を構想 できる力の修得
- ■地域の課題解決のために、さまざまな分野の構 成員からなるチームを自ら組織し、フロントラン ナーとして先頭に立って運営できる力の修得
- ■地域社会の機能を持続的に維持したり、地域社会の礎と なる産業を発展させたりする計画を立案し、粘り強く実 施することで新たな価値を創造(共創)できる力の修得

地域リノベーション専攻

アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

- ○地域の特性や潜在的な資源等を深く理解し、地域を支える機能の 維持や再生に必要な(社会学または工学などの)基礎的な知識を 身につけている人
- ○自らの専門に留まらず、異分野にも興味関心を持ち、異分野の専 門家と一緒に地域の未来を構想し、その実現にむけて実践的に取 り組む意欲と行動力のある人
- ○地域社会の機能を維持し再生するために、地域の専門家や多様な ステークホルダーと協働しながら、組織的に課題を解決する意欲 のある人

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

- ○地域の特性や潜在する資源を活用し、地域社会の機能を維持し再 生する方策を構想できる力を育成するために、専攻科目として社 会学や工学などの異分野にまたがる授業科目群を置きます。
- ○異なる分野の研究者や地域の専門家と共創することの重要性を 理解し、自らの専門性を位置づけることができるように、専攻共通 科目として「地域リノベーション特論」を置きます。
- ○地域を支える機能を維持し再生するために立案した政策や計画を 多面的に評価できるように「政策・事業評価演習」を置きます。
- ○持続可能な地域の未来を構想し、その実現に必要な政策や計画を 論理的・体系的に考える能力を育成するために、修士論文の作成 を目指した特別研究を置きます。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

- ○社会学や工学などの専門的・俯瞰的知識を用いて地域の特性や 潜在する資源を的確に把握し、持続可能な社会へと機能転換する 方策を意欲的に構想できる力を身に付けていること。
- ○持続可能な地域社会を共創によって実現するために、自らの専門 と異なる分野の研究者や地域の専門家を含めた体制を構築し、フ ロントランナーとして先導的に運営できる力を身に付けているこ یے
- ○多様なステークホルダーの意見などを総合しながら、地域に密着 した政策や計画を立案することで新たな価値を創造(共創)できる 力と、その効果を多面的に評価できる力を身に付けていること。

産業創成科学専攻

アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

- ○地域の課題を深く理解し、課題を解決するために必要な(農水産 学または経営学などの) 基礎的な知識を身につけている人
- ○自らの専門に留まらず、異分野にも興味関心を持ち、異分野の専 門家と一緒に課題解決に向けて科学的に研究し、実践的に取り組 む意欲と行動力のある人
- ○地域産業の発展のために、域内だけで完結することなく、域外との 連携も視野に入れた外向き志向で地域課題を解決する意欲のあ

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

- ○地域産業の課題を十分に理解し、その解決のために必要となる専 門的な知識を修得させるために専攻科目として農水産学や経営 学などの異分野にまたがる授業科目群を置きます。
- ○地域の産業特性と課題に対して、自らの専門性を位置づけること ができるように、専攻科目として「地域産業創成特論」を置きます。
- ○農水産学や経営学など各々の専門性による付加価値、さらにはそ れらの共創による付加価値を生み出すための構想力やマネジメン ト力を修得させるために「共創価値創出演習」を置きます。
- ○また、地域産業の課題を探究し、課題解決にむけたプランを科学 的・論理的・体系的に考え、実践し得る能力を育成するために、修 士論文の作成を目指した特別研究を置きます。

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

- ○農水産学や経営学などの専門的・俯瞰的知識を用いて、地域産業 の特性や課題を的確に把握し、地域社会を維持・発展させるよう なローカルにおける生業(なりわい)を構想する力を身に付けてい ること。
- ○その生業をローカルからグローバルに展開し、地域の価値を高め、 地域経済を牽引する産業を構想できる力を身に付けていること。
- ○各々の専門性を活かしつつ、異分野の専門家との共創によって地 域の価値を高める新しい知を生み出すための共創価値を創出す る力を身に付けていること。
- ○科学的思考に基づいた研究力を基盤とし、地域資源を活用した商 品を開発する力、マーケット志向による企画を提案する力、さまざ まな分野の専門家による共創状態をフロントランナーとしてマネ ジメントする力を身に付けていること。

カリキュラムの特徴

本研究科では、社会科学・工学・農学の科目を幅広く学びながら専門性と俯瞰性を高め、地域共創を先導する人材に必要な資質や能力を身に付 けるため、「スキル科目」、「地域共創科目」、「専攻科目」、「特別研究」の4つの科目区分を設定しています。

特別研究 地域共創科目 専攻科日 専攻共通科目 スキル科目

修了要件

193311		
科目区分	単位数	要件
◆スキル科目	2単位	必修2科目2単位
◆地域共創科目	4単位	必修2科目4単位
◆専攻科目	16単位	必修2科目(専攻共通科目)4単位、 選択必修12単位
◆特別研究	8単位	選択必修2科目8単位
計	30単位	

2

地域リノベーション専攻



■入学定員

15名

■研究領域・授与する学位

研究領域	学 位
コミュニティデザイン	修士(地域共創社会学)
レジリエンステクノロジー	修士(地域共創工学)

■人材育成

『地域を守る』

高度専門職業人の養成

社会科学・工学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専 門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働 し、「地域を守る」という観点から、新たな価値を創造(共創)できる 高い能力を有する"地域社会の未来を切り拓くフロントランナー" を育成します。

■想定している進路

- 国の機関
- ・地域密着型企業
- · 地方自治体(行政職·技術職)
- · その他NPO団体
- ・コンサルタント業
- ・シンクタンク
- ・電気/ガス/熱供給/水道業 ・建設業
- ・保険業
- ・エネルギー関連業など
- ・地域貢献型企業

■教育カリキュラム

地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理す る手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先 進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が 協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に 物事を考え、実行する力を身に付けます。

◎授業科目

〈地域共創科目〉

- 必修科目
- ·地域共創特論
- 地域共創演習
- 選択科目
- ・インターンシップA ・インターンシップB
- 〈スキル科目〉 必修科目

- ・地域データ解析特論
- · 知的財産管理特論

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や 演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家 と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作 成を目指した特別研究を組み合わせることによって、地域 が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

◎授業科目

必修科目

専攻科目

- ・地域リノベーション特論
- ·政策·事業評価演習

選択必修科目

- ・地域調査演習 ·地形環境学特論 ・地域研究特論 ·防災地質学特論 ・生態人類学特論 ・気候変動科学特論 ・グループ・ダイナミックス特論 ・環境影響評価特論 ・社会心理学演習 ·地理情報解析特論 ・メディア社会学特論 ・バイオマス資源探査学特論
- ・家族社会学特論 · 生物多様性保全特論 ・都市社会学特論 ・地盤震動工学特論 ・地域社会学演習 · 防災構造工学特論 ・応用社会学特論
- ・循環型エネルギー工学特論 ·都市·農村計画特論 バイオマスエネルギー特論 ・エネルギー気象学特論 ·社会教育特論 ・風力エネルギー工学特論 ・社会教育演習
- コミュニティデザイン演習 ・レジリエンス科学特別演習

特別研究

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修 得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指し ます。

◎授業科目

選択必修科目

- ・コミュニティデザイン特別研究I
- ・コミュニティデザイン特別研究Ⅱ
- ・レジリエンステクノロジー特別研究I
- ・レジリエンステクノロジー特別研究Ⅱ

■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻 科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計 30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終 試験に合格することを修了要件とします。

■取得可能な資格

・専門社会調査士

■履修モデル

〈研究テーマ例〉 自然エネルギーの導入による地域経営の		自立化 〈学位〉修士(地域共創社会学)
科目区分	1年次	2年次
地域共創科目	インターンシップA インターンシップB	地域共創特論 地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論	
専攻科目	地域リノベーション特論 循環型エネルギー工学特論 政策・事業評価演習 応用社会学特論 社会教育演習 せ域研究特論 コミュニティデザイン演習	農業経営学特論
特別研究	コミュニティデザイン特別研究I	コミュニティデザイン特別研究Ⅱ

〈研究テーマ例)産学連携を通じた地域防災の推進	〈学位〉 修士 (地域共創工学)
科目区分	1年次	2年次
地域共創科目	インターンシップA	地域共創特論 地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論	
専攻科目	地域リノベーション特論 地盤震動工学特論 政策・事業評価演習 防災構造工学特論 グループ・ダイナミックス特論 防災地質学特論	レジリエンス科学特別演習 産学連携学特論
特別研究	レジリエンステクノロジー特別研究I	レジリエンステクノロジー特別研究Ⅱ

■教員紹介

■教具和月				
研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
	杉山祐子	生態人類学, 地域研究	白 石 壮一郎	地域研究, 社会学
	曽 我 亨	生態人類学, 地域研究	李 秀 眞	社会学
	羽渕一代	メディア文化論,文化社会学	土 井 良 浩	地域計画学
コミュニティ	増 山 篤	地理情報システム	平井太郎	社会学
デザイン	北原啓司	都市計画,まち育て	古村健太郎	心理学
	髙 瀬 雅 弘	社会学	花田真一	政策の定量評価
	日比野 愛 子	社会心理学	深作拓郎	教育学(社会教育学)
	近 藤 史	地域研究, 環境社会学		
	小 岩 直 人	自然地理学	石川幸男	環境生態学
	長 南 幸 安	化学	官 国清	バイオマスと材料化学
レジリエンス	片岡俊一	地震工学	本 田 明 弘	機械工学, 風工学
テクノロジー	梅田浩司	応用地質学	上原子 晶 久	土木建築工学
	野尻幸宏	環境化学,地球化学	島田照久	エネルギー気象学
	阿 布 里 提	エネルギー工学		

教員紹介の詳細はこちらからご覧いただけます。 https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/







産業創成科学専攻

■入学定員

15名

■研究領域・授与する学位

研究領域	学 位
食産業イノベーション	修士(地域共創農学)
グローカルビジネス	修士(地域共創経営学)

■人材育成

『地域から攻める』 高度専門職業人の養成

社会科学・農学等の学士課程における修学をさらに高度化し、専 門性と俯瞰性を兼ね備え、異分野の専門家や地域の専門家と協働 し、「地域から攻める」という観点から、新たな価値を創造(共創)で きる高い能力を有する"地域社会の未来を切り拓くフロントラン ナー"を育成します。

■想定している進路

- ・製造業(食品関係)
- ・コンサルタント業
- ・複合サービス業(農協、観光関係等)
- ・ソーシャルビジネス

・国際流通小売業

・起業など

・商社

■教育カリキュラム

地域共創科目・スキル科目

地域の課題を把握する基礎的な手法や、地域の知的財産を管理す る手法を学ぶことができます。また、地域社会の課題を解決する先 進的な事例研究の成果を踏まえながら、異なる専門分野の学生が 協働しながら、創造力を発揮する実践的な学習を進めて、総合的に 物事を考え、実行する力を身に付けます。

・地域データ解析特論

· 知的財産管理特論

〈スキル科目〉

必修科目

◎授業科目

〈地域共創科目〉

必修科目

- ·地域共創特論
- 地域共創演習

選択科目

- ・インターンシップA
- ・インターンシップB

専門性を活かしながら、異なる研究分野と共創する特論や 演習を履修し、自らの専門性を位置づけ、異分野の専門家 と協働する素地を得ることができます。また、修士論文の作 成を目指した特別研究を組み合わせることによって、地域 が必要とする高度専門職業人の能力を身に付けます。

◎授業科目

必修科目

- ·地域産業創成特論
- ・共創価値創出演習

選択必修科目

- ・食品栄養科学特論
- ・食品工学特論
- ・食品機能生理学特論
- ・園芸植物機能学特論
- ・地域産物活性化特論
- ・水産資源管理学特論
- ・食品副産物資源の飼料利用特論・国際食品マーケティング特論
- · 植物遺伝資源栽培特論
- ・非破壊分析特論
- ・食料科学特論
- ・食サイエンス特別演習
- ベンチャービジネス特論
- グローバルビジネス特論
- コミュニティビジネス特論
- ・農業経営学特論
- ・産学連携学特論
- · 会計応用分析特論

サービスマーケティング特論

プロダクトデザイン特論

・地域イノベーション特論

・農産物輸出ビジネス特論

・食品循環流通学特論

・国際フードビジネス特論

・地域協同組合論

・国際農業開発特論

· 経営情報分析特論

・中小企業特論

地域共創科目やスキル科目、専攻科目を交えて体系的に修 得した専門知と実践知を踏まえ、修士論文の作成を目指し ます。

◎授業科目

選択必修科目

- ・食産業イノベーション特別研究Ⅰ
- ・食産業イノベーション特別研究Ⅱ ・グローカルビジネス特別研究Ⅰ
- グローカルビジネス特別研究II

■修了要件

地域共創科目から4単位以上、スキル科目から2単位、専攻 科目から16単位以上修得し、特別研究8単位を含む合計 30単位以上修得するとともに、学位論文の審査及び最終 試験に合格することを修了要件とします。

■取得可能な資格

・食の6次産業化プロデューサー LEVEL3 (国家戦略・プロフェッショナル検定)

■履修モデル

〈研究テーマ例〉 地域の特性にあわせた機能性食品の開発		発	〈学位〉 修士 (地域共創農学)
科目区分	1年次		2年次
地域共創科目	インターンシップA	地域共創特論	地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論		
専攻科目	地域産業創成特論 地域産物活性化特論 共創価値創出演習 食料科学特論 ベンチャービジネス特論 食品栄養科学特論	食サイエンス特別 地域研究特論	演習
特別研究	食産業イノベーション特別研究I	食産業イノベーシ	/ョン特別研究I

〈研究テーマ例	▷ 加工食品の高付加価値を実現するビジネス	モデル研究 〈学位〉 修士 (地域共創経営学)
科目区分	1年次	2年次
地域共創科目	インターンシップA	地域共創特論 地域共創演習
スキル科目	地域データ解析特論 知的財産管理特論	
専攻科目	地域産業創成特論 グローバルビジネス特論 共創価値創出演習 国際食品マーケティング特論 ベンチャービジネス特論 地域産物活性化特論 農産物輸出ビジネス特論 プロダクトデザイン特論	社会心理学演習
特別研究	グローカルビジネス特別研究I	グローカルビジネス特別研究Ⅱ

■教員紹介

研究領域	氏名	研究指導分野	氏名	研究指導分野
	安 川 あけみ	農芸化学,染色,家政	樋 口 智 之	農芸化学
	岩井邦久	食品機能科学	津田治敏	畜産学
	佐藤之紀	食品物性機能制御学	福田覚	水産科学
食産業	中島 晶	食品安全生理学	島 田 透	化学
イノベーション	中井雄治	農芸化学	房 家琛	畜産学
	勝川健三	花卉園芸学	吉 田 渉	水産学
	君塚道史	食品工学	林田大志	農学
	西塚 誠	農芸化学	山 元 涼 子	農芸化学
	大橋 忠 宏	交通政策, 地域科学	髙島克史	経営戦略論,起業論
	森 樹 男	国際経営論	大 倉 邦 夫	企業社会論
	黄 孝春	農産物貿易	佐 藤 光 輝	プロダクトデザイン
グローカル	保田宗良	マーケティング	成田拓未	国際食品マーケティング論
ビジネス	泉谷眞実	食品循環流通経済学	柳 京 熙	農業経済学
	石 塚 哉 史	食料経済学	佐藤孝宏	国際農業開発論
	佐々木 純一郎	地域ブランド論	吉 仲 怜	農業経営学
	内山大史	付加価値創造科学		
·				

教員紹介の詳細はこちらからご覧いただけます。 https://scs.hirosaki-u.ac.jp/professor/





研究環境

〈大学院生室など〉

大学院生が利用できる院生室として、グループワークやディスカッションなどでの活用を目的とした「コ・ワーキング(共創)]型と、授業の準備 や論文執筆、学会資料の作成など静かな環境で自修できる「スタディ(自修)」型の2部屋あります。また、実験室や演習室など研究に必要な環 境が充全に整っています。







〈研究支援制度〉

大学院生の研究を支援するために、院生室ごとにコピー機を設置しており、研究のために必要な文献の複写等で利用することができます。

〈相談員制度〉

大学院生の疑問や悩みに対応するために相談員制度があります。相談員は、相談者のプライバシーが保たれるよう、また、不利益が生じない ように配慮しつつ、関係各所と連絡・協議して、問題解決にあたります。

授業科目、研究指導、成績評価に関する疑問・質問・苦情、メンタルヘルスやハラスメントに関する悩み、その他研究生活全般に関する事柄に ついて相談を受け付けています(相談者のあらゆる不安に応えられるよう、研究科だけでなく全学の相談窓口も設けています)。

また、専門の学生相談員・ハラスメント相談員を設け、授業や生活に関する相談のほか、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、 パワー・ハラスメントなどに関する苦情を受け付けています。

深刻・重大な問題が生じた場合も、本研究科または弘前大学が責任をもって対応します。

社会人支援制度

〈教育方法の特例制度〉

社会人学生への特例として、正規の授業時間帯以外の時間帯等に授業又は研究指導を受けることも可能です。希望者は、担当教員と事前に 相談してください。

〈長期履修制度〉

2年分の授業料で最長4年間かけて研究に取り組むことができます

社会人の方の就学を容易にするとともに、経済的負担等の軽減を図るために長期履修制度を実施しています。この制度の適用対象者は、職 業を有している者(自営業、臨時雇用、非常勤等を含む。)で、認定された方は、2年分の授業料で最長4年間かけて研究に取り組むことができ ます。







新入生の声

"ことば"の研究を通して青森県と向き合う手がかりを

地域リノベーション専攻 コミュニティデザイン領域 新1年生

と ざき 青森県立青森高等学校 出身

航 さん 弘前大学 人文社会科学部 社会経営課程 地域行動コース出身 戸崎

学部時代は社会言語学ゼミナールに所属し、「やさしい日本語」や方言について研究していまし た。「やさしい日本語」とは、普段使われている言葉を外国人にもわかるように配慮した簡単な日本 語のことで、阪神・淡路大震災をきっかけに注目されました。研究の第一人者である弘前大学の佐 藤和之先生が退官されることになったため、その後、社会心理学ゼミナールでことばに着眼した研 究を行ってきました。卒論で取り上げたのは、「テキストマイニング」です。新聞記事、雑誌、学術誌 など膨大な量のテキストデータから有益な情報を抽出する解析手法です。

入学後は、社会言語学を軸にさまざまな学問領域を越境して研究に取り組む予定です。社会言 語学だけに限定せず、言語と他との関わりに着目した研究を行ってみたいと思っています。たとえ ば、地理情報と言語の関係性もそのひとつ。海峡によって北前船の航路はどう変わったのか、それ によって言語のつながりがどう変化したのかなど、地理と言語の関わり、そこから発展した社会や 産業についても興味があります。

当研究科は「文理共創」という理念を掲げ、文系・理系の院生がともに学ぶことで新たな価値を 創ることを目指しています。私自身、理系の方の知識に触れる機会がなかなかないので、そのよう な環境で学べることに意義を感じています。偏った視点からの研究に留まらないよう、学術的な議 論だけでなく多くの人との会話を通して幅広い視点を養いたいと思っています。将来は、地元で公 務員として働きたいという夢があるので、青森県の課題解決に貢献し地域をともに創生していけ るよう、たくさんの技術や知識を身につけ、社会で生かせるよう頑張りたいと思います。



食品や薬学の知識を生かして動物用医薬品などの開発者に

産業創成科学専攻 食産業イノベーション領域 新1年生

わたなべ あや こ

岩手県立一関第一高等学校 出身

渡邊 彩子 さん 弘前大学 農学生命科学部 食料資源学科 食品科学コース 出身

学部時代は、食品物性制御学研究室に所属し、食品の糖添加と力学物性値との関係について 学んでいました。卒業研究ではモデル食品である食パンに対し糖アルコールの保水性が与える影 響について検討していました。

卒業後は大学院に進学したいという希望もありましたが、就職も視野に入れ畜産飼料や動物用 医薬品の企業を対象に就職活動に臨みました。しかし、自分の知識や実験経験の不足を感じ、研究 をさらに深めるために当研究科への進学を決めました。

研究室では、これまでに柑橘類果皮の成分であるフラボノイド化合物ノビレチンが、種々の認知 症モデルマウスにおける記憶障害やアルツハイマー病で見られる神経病理学的変化を改善するこ とを明らかにしています。来年度は、さらに、青森のりんごやブラックカシスなどを使った研究を行 う予定です。

超高齢化社会の現代において、神経系疾患である認知症予防についての研究は大変意義があ ると感じています。入学後は、薬理学について専門に取り組む予定ですが、食品成分を用いて神経 系疾患にアプローチする研究に大きな魅力を感じています。学部時代の研究とは完全に異なる分 野での研究に取り組むため、基礎から着実に固めていきたいと思っています。細胞やマウスを扱う こともあるので、緊張感と責任感を持って取り組みたいと思います。将来は、自分の好きな動物に 関わる仕事に就くのが夢です。食品や薬学の知識を生かして、動物用医薬品や畜産飼料、ペット フードなどの開発に携わりたいと思っています。そのために、異なる領域の方と交流を重ねながら たくさんのことを学び、もっと成長していけたらと思います。





地域リノベーション専攻 コミュニティデザイン領域 1年

あらや さとこ 新谷 聡子 さん

青森県立弘前中央高等学校 出身 武蔵野美術大学 出身



就学期間を延長し仕事と両立 地域活性化に貢献したい!

地方銀行の本部で、CSR(企業の社会的責任)活動の推進業務を担当しています。主な 仕事内容は、地方公共団体などと連携したイベントの広告協賛や、自社商品の企画・推進 のための広告宣伝です。業務を通じて県内各地で頑張っている人たちがたくさんいること を知り、大学のコミュニケーションデザインの分野で学んだ「人と人のつながりが地域を変 えていく」いう言葉の意味をあらためて感じました。一人ひとりの力がつながれば何かが生 まれ、地域を元気にできる。そのためにはマンパワーが重要であり、それを支える専門的な 知識が必要だと考え入学を決意しました。

現在、コミュニティデザイン演習の授業で、弘前市の方々と一緒に弘前市小比内地区の まちづくりプロジェクトに参加しています。高齢化が進み担い手不足が深刻ななか、地域住 民が安心して暮らし住んで楽しいと思える地域にするためにワークショップを開催するな ど、実践を通じて学べることにやりがいを感じています。地域共創科学研究科はその名の 通り、分野を超えて学べるため、ここに来なければ知り得ない世界が広がりつつあります。

素晴らしい先生ばかりで驚くとともに、入学して本当に良かった!と思う場面が実に多い です。そして、青森県はすごい!と気づかされます。コロナ禍においても、弘前大学は学生へ の支援にいち早く取り組み、メディアへの発信力と影響力のすごさに驚きました。と、同時 にそのような大学が青森県を代表する教育機関であることを誇らしく感じました。入学前 は仕事との両立が不安でしたが、就学期間を2年から4年に延長申請し、両立しています。 将来は、仕事をしながら地域コーディネーターとして活動するのが夢。社会人の皆様、一緒 に頑張りましょう。



地域リノベーション専攻

はん しょうけつ 潘 蒋杰 さん

弘前大学 出身

IT技術と各業界のコラボで 新たな価値を創造したい!

当研究科を選んだ理由は、「異分野の専門家や地域の専門家と協働する」という理念に 共感したからです。また、「文理共創」という理念のもと、文系と理系の大学院生がそれぞれ の専門分野を生かしながら新たな価値を創り上げるということにも魅力を感じました。学部 時代は、理工学部地球防災学科で災害について学んでいたので、防災関連のレジリエンス テクノロジー領域を選びました。

現在、AIの画像認識技術を用いて建築物の外観特徴を識別させる研究と、それをもとに 建築年数を推定する研究に取り組んでいます。技術が確立することによって地域防災に貢 献できることに大きなやりがいを感じています。

将来は、IT技術を駆使してさまざまな業界が抱える課題を解決する仕事に就きたいと 思っています。たとえば、弘前大学ではAlを使ってりんごの成熟度を判別する研究なども 行っていますが、少子化が進み人手不足が深刻になるなか作業の効率化は業界共通の課 題です。これまでITと縁遠かった業界にITを採用することで、課題解決につなげていけたら と思います。IT単独では単なるツールに過ぎませんが、多種多様な業界とコラボすることで レジリエンステクノロジー領域 1年 ITの真価が発揮できると思っています。

> 弘前大学では、多くの国や地域から来日した留学生が学んでいます。コロナ禍で、ふるさ とを離れて暮らす日々は不安もありますが、一人暮らし学生を対象にした食支援プロジェ クトやプレミアムお食事券など、弘前大学の手厚い支援に助けられています。今後は、画像 認識とデータサイエンスの知識をさらに積み重ねて、社会に貢献できる人になりたいと思っ ています。



産業創成科学専攻 食産業イノベーション領域 1年

の ざき み さ 野崎 未紗 さん

新潟県立新潟高等学校 出身 弘前大学 出身

がん転移の分子メカニズムを 明らかにする研究

学部で行っていた研究をさらに深めていきたいと思い、当研究科への進学を決めまし た。現在、がん転移の分子メカニズムについて研究を行っています。がん細胞が転移する際 に起こる事象に対し、注目している因子がどのような働きをするのか、また、どのようなメカ 二ズムで作用するのか検討しています。実験がうまくいかないこともありますが、誰も明ら かにしていない事象について実験結果をもとに考察し、明らかにしていくことにやりがいを 感じています。

当研究科には、社会人学生や各国から訪れた留学生がたくさんいます。年齢や国籍の異 なる多種多様なバックボーンを持った方たちとディスカッションすることで、世界が大きく 広がります。それによって、多くの気づきや発見が得られ、多角的な視点が身に付くのが当 研究科の大きな魅力だと感じています。中国人の学生とディスカッションするなか、よりコ ミュニケーションを深めたいと中国語を習い始めた学生もおり、日々、新たな刺激を受けな がらスキルアップできる環境です。

学生生活においては、コロナ禍で前期の授業がメディア授業になるなどイレギュラーな こともたくさんありました。そんななか、弘前大学は100円夕食や、青森県内13市町村の地 元産品を活用した食支援プロジェクトなど、さまざまな支援に取り組んでくれました。一人 暮らしなので、お弁当や地元産品のパッケージなどの支援が有難かったです。また、今まで 知らなかった県内の特産品を知る機会にもなりました。将来は、大学院で学んだ知識や研 究活動を通して身につけたスキルを生かせる仕事に就き、地域や社会に貢献していきたい と思っています。



産業創成科学専攻 グローカルビジネス領域 1年

やまもと さとる 山本 諭さん

東奥義塾高等学校 出身 北海道情報大学 出身

大学職員として働きながら ステップアップを目指す

私は、弘前大学の事務職員として働きながら、当研究科で学んでいます。5年前に配属に なった研究推進課では、他機関や自治体の方々とともに仕事をする機会が多いため、大学 の研究と地域課題を組み合わせて専門的に学びたいと思っていました。そんな矢先に新学 科設立の話があり、入学を決意しました。現在、当研究科では青森県の産官学金連携の組 織の調査をしており、特に食産業における成功事例について研究を行っています。本研究 の面白いところは、大学・企業・自治体が連携し地域課題の解決策を探り、どうすればそれ ぞれがメリットを享受し、WIN-WINの関係になれるかを探求することです。まさに社会に 出てから実効性のある研究であり、それを分野の違う専門家とコラボしながら模索できる ことが当研究科の魅力だと思います。

弘前大学では、教員と職員が協力しながら、大学をより良いものにしていこうと「教職協 働」に取り組んでいます。事務職員も産学官連携の学問的な部分を押さえておくことで連 携がしやすくなり、課題解決に向けて教員と一緒に考えることができます。将来は当研究科 で学んだことを生かし、大学の縁の下の支援者として地域共創に取り組んでいきたいと 思っています。また、産学官連携を専門とした研究者になりたいという夢もあります。

農学×経営学は、県内でも弘前大学の当科だけです。学部で学んだことをベースに、そこ からさらに地域課題の解決につなげていける非常に面白い学科です。将来、自治体職員や 起業を目指している学生はもちろん、現在、自治体などに勤務している方も、政策を考える 時にこの学科で学んだことが大きな効果を発揮すると思います。

研究紹介「地域リノベーション専攻」

◎地域共創科学研究科「教員紹介動画」 https://scs.hirosaki-u.ac.jp/staff-introduction/



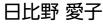
RESEARCH HIGHLIGHTS 1

生命科学・食糧生産等にかかわる萌芽的技術が与える社会的インパクトの解明



近年、科学技術と社会との境界で生じる問題が増えています。たとえば、培養肉生産技 術は、細胞培養に関する最先端テクノロジーを駆使して食肉の生産を可能にするものです が、これは従来の私たちの世界観にも変容を迫ります。こうした新技術の登場の際には、技 術と社会が相互に影響していく過程を丹念に追うことが重要です。

私は、培養肉生産の研究開発チームと協働して、一般の人々がどのように新しい技術や その産物を認識しているのかを明らかにする意識調査を進めてきました。調査からは、培養 肉への態度にその人が持つ生命観が影響していることが示されました。まだなじみのない 培養肉技術にこれからどのような意味が付与されていくのかも興味深いところです。このほ か、感染症シミュレーションの社会実装をめぐる問題について、科学技術社会学、社会心理 学の観点から取り組んでいます。新しい概念や政策提言の形で、社会科学の成果を研究 開発側や地域社会にフィードバックすることを意識しています。



コミュニティデザイン領域

(E-mail) ahibino@hirosaki-u.ac.jp (Website) https://researchmap.jp/read0113708





RESEARCH HIGHLIGHTS2

気象・気候情報の高度利用を目指して



島田 照久 レジリエンステクノロジー領域

(E-mail) shimadat@hirosaki-u.ac.jp (Website) https://researchmap.jp/read0133225

気象・気候情報は、これまで以上に社会で広く利用され、より高度な利用が求められてい ます。まず、変動性再生可能エネルギー(風力・太陽光)の導入が加速していることにより、そ の賦存量の把握、出力変動の理解・予測がますます重要になっています。次に、気候変動リ スクの評価や気候変動適応策の推進が継続的に求められています。また、気象災害・海洋 災害を低減する取り組みがより一層必要です。さらに最近では、様々な産業分野において 気象データの利用が進み、気象ビジネス・気候変動適応ビジネスが急速に発展しています。 一見すると、これらの課題で対象とする現象の時空間スケールには隔たりがあり、課題相互 の関係性が低いように思えるかもしれません。しかし、「地域」という観点から見直すと、各課 題が深く関係していることがわかります。

たとえば、気象ビジネスの一つが変動性再生可能エネルギーの運用と言えます。変動性 再生可能エネルギーの運用をする上では、電力系統の安定運用のため、時々刻々と変化す る気象に対応する必要があります。一方で、変動性再生可能エネルギーの導入は、地域社 会の将来構想に関わるため、気候変動の見通しも考慮すべきでしょう。地域スケールの気 象・気候のさらなる理解を通して、気象・気候情報の高度利用・地域社会の課題解決に貢 献できるよう研究を進めています。



大気海洋相互作用 変動性高生可能エネルギー 異常文章 局地的强星 冷夏・ヤマセ 冬季季節風 防泉波 建新加油 海上版・洋上風に関わる現象の理解を適して、 地域社会の課題解決に貢献することを目指しています

研究紹介「産業創成科学専攻」

◎地域共創科学研究科「教員紹介動画」 https://scs.hirosaki-u.ac.jp/staff-introduction/



RESEARCH HIGHLIGHTS3

食品冷凍技術による新たな付加価値の創造



君塚 道史

食産業イノベーション領域

(E-mail) kimizuka@hirosaki-u.ac.jp

食品の冷凍保存は、私たちの生活から切り離せないほど、広く社会に浸透しています。いわ ゆる冷凍食品は冷凍された食品のほんの一部であり、加工食品や外食産業を支えている水 産物・畜産物・農産物などの原料は、その大部分が冷凍で流通しているといっても過言では ありません。食品業界にとって、冷凍は必要不可欠な技術となっています。

しかし、冷凍は既に完成した技術ではありません。冷凍保存時に生じる品質劣化のメカニズ ムには、まだ明らかになっていない謎が沢山あります。そのため、冷凍マグローつを例にとって みても、最適な凍結条件について明確な答えを出せずにいるのです。急速冷却と超低温保存 で解決できるほど単純な問題ではありません。

また、単に食品を冷凍すると言っても、その原理や技術は、医薬や生体の保存、氷蓄熱、雪 氷、冶金や材料など、様々な分野と共通点や関わりが多数あります。さらに、地球規模の課題 である食糧問題や環境問題の解決にも冷凍を無視する事はできません。今後、食品冷凍技 術がさらに発展するためには、これら分野との融合が必要不可欠と言えます。冷凍には一つ の学問領域にとらわれない魅力があるのです。









RESEARCH HIGHLIGHTS4

りんご輸出マーケティングと生産・流通過程に関する研究



21世紀の初頭から、日本政府は農林水産物・食品の輸出を農業政策の重要な柱の一つ に位置づけ、積極的な支援策を打ち出してきました。2020年現在、その輸出金額は1兆円近 くまで増大しており、2030年までには5兆円に増大させようとする目標を打ち出しています。農 産物の中でもりんごは代表的な輸出品目の一つであり、その大半を青森県産が占めている とされています。台湾、香港を中心とする地域に、年間3万トン程度輸出されています。人口 減少の進む我が国において、海外に安定した販路を確保することは重要なことです。しかし ながら、目下産地では生産者や結果樹面積の減少、生産・流通過程における労働力の不 足など、輸出を安定的に持続させる上での懸念材料をいくつも抱えています。

当研究室では、りんごの輸出マーケティングを起点に、その基盤となる生産・流通過程の 実態分析、直面する課題の析出を進めています。

成田 拓未

グローカルビジネス領域

(E-mail) tnarita@hirosaki-u.ac.jp (Website) http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/staff/takumi-narita





12